

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

木川南小	学校	児童数	24
------	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.20	16.80	32.64	35.36	42.64	9.62	143.55	15.45	47.00
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	14.92	14.54	33.54	34.00	31.77	9.83	135.23	11.85	47.69
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

今年度は、全種目において全国・大阪市平均を上回ることができなかった。男女共に「体力合計点」が50点に満たない結果となり、運動能力の蓄積が少ない結果となった。また、男女共に「運動やスポーツをすることは好きですか」で「好き」と回答した割合が全国・大阪市は70%以上に対し54.5%で、「やや嫌い」が18.2%であった。「1週間の総運動時間」が「60分」未満の割合が、男子72.7%で全国・大阪市の割合に比べて高くなっている。女子は69.2%で全国、大阪市の割合と同じだが、「0分」と回答した割合が高い。児童質問調査の回答からも運動に対する意識が低いことが分かり、各学年に応じた運動能力を高める取り組みの必要性である。全種目において平均値を高める取り組みを実施していきたい。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

通年で運動チャレンジ（通称ウンチャレ）を全学年で取り組み、基礎的な体力の向上に努め、各自毎日、積極的に活動できていた。今年度もトップアスリート事業で専門的なゲストティーチャーによる指導の機会を設け、休み時間を利用した「なわとび週間」「かけ足運動」を継続的に実施している。児童の意欲向上を図るためにワークシートを用意することで視覚的に頑張りを図る。

また、今年度の結果を踏まえ、基礎的な体力・運動能力の向上を図る必要がある。そのために体育科の学習を通じてバランスのとれた年間指導計画を練り直す。学校全体で、時期や児童の実態を見極めながら、指導計画を実施することで効果的な基礎的な体力・運動能力の向上を目指す。体育科の学習を通じて子どもたちが主体的に運動に親しみ、健康で充実した学校生活が送れるよう、限られた時間の中で、効果的な運動をすることで体力・運動能力の向上を図っていく。